

豊島区子ども読書活動推進計画（第三次）

平成30年度 各課進捗状況

令和元（2019）年 9月

豊 島 区

目 次

第 1 部 計画の概要	1
1. 計画の目的	1
2. 計画の位置づけ	1
3. 計画の体系	1
4. 計画の重点分野	2
5. 計画の進捗管理	2
第 2 部 計画の実施状況	2
1. 数値目標	2
子どもの図書貸出冊数の状況	2
2. 計画事業	3
(1) 調査の実施	3
(2) 計画事業の所管課評価別の状況	3
(3) 計画事業の実施状況	3
(4) 計画策定後、平成 30 年度から新たに実施する事業	3
別表 1 所管課評価別の事業数	4
別表 2 計画事業の実施状況	5
別表 3 新規事業の計画	26

第1部 計画の概要

1. 計画の目的

豊島区は、平成18年3月に「子ども読書活動推進計画」を策定して施策を総合的に推進してきました。4年後の平成22年3月には、子どもの読書環境を取り巻く社会環境の変化に応じて計画を修正し、第二次計画として策定しました。

「豊島区子ども読書活動推進計画」(第三次)は、「一人ひとりの子どもが素晴らしい本と出合うことで、読書の魅力を発見する機会を提供し、生涯にわたる読書習慣を身に付けられるよう、発達段階に応じた読書機会の提供と読書環境の整備を図る」という第一次及び第二次推進計画で掲げた理念、目的を引継ぎ、子ども読書活動推進のための施策の方向性や取組みを示しています。

2. 計画の位置づけ

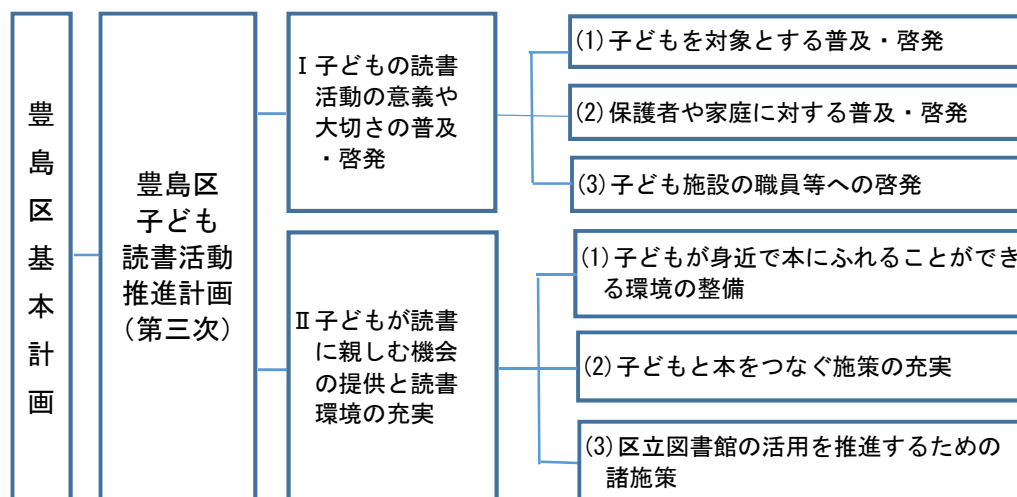
この計画は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づく市町村の計画であり、豊島区基本計画を補完する子ども読書活動分野の総合計画に位置づけられます。また、豊島区教育ビジョン2015－豊島区教育振興基本計画－、豊島区子どもプラン(豊島区子ども・子育て支援事業計画)をはじめ関連する計画との整合性を図っています。

3. 計画の体系

豊島区の子どもたちの読書活動や読書環境の現状を踏まえ、次の二つの目標を掲げ、諸施策を体系的に整理しています。また、施策の体系に沿って、新規12事業を含め87の計画事業を掲げています。

- (1) 子どもの読書活動の意義や大切さの普及・啓発
- (2) 子どもが読書に親しむ機会の提供と読書環境の充実

【施策の体系】



4. 計画の重点分野

本計画の施策の重点分野は、「読書活動に関する実態調査」の結果や国と東京都の動向を踏まえ、家庭における読書環境充実にかかる支援施策と小・中学生や高校生の読書活動推進にかかる諸施策に焦点をあてています。

5. 計画の進捗管理

本計画の進捗管理については、子どもの読書活動の関係機関で構成される「子どもの読書活動推進会議」を中心に行い、各年度において実施状況を把握・点検しつつ、その後の施策の推進を図っていきます。

第2部 計画の実施状況

1. 数値目標

【子どもの図書貸出冊数の状況】

○区立図書館の子どもの図書貸出冊数

	平成 26 年度 [基準値]	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 32 年度 [目標値]
児童書	263,513 冊	345,748 冊	359,019 冊	277,000 冊
YA 書	68,846 冊	68,695 冊	68,117 冊	73,000 冊
合計	332,359 冊	414,443 冊	427,136 冊	350,000 冊

○学校図書館の図書貸出冊数

	平成 26 年度 [基準値]	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 32 年度 [目標値]
小学校	212,810 冊	279,775 冊	291,442 冊	224,000 冊
中学校	9,824 冊	20,148 冊	19,020 冊	11,000 冊
合計	222,634 冊	299,923 冊	310,462 冊	235,000 冊

2. 計画事業

(1) 調査の実施

平成 30 年度の実施状況を取りまとめるにあたり、子どもの読書活動推進事業を実施している庁内関係部局に対し、令和元年 6 月に調査を実施しました。

平成 30 年度の実施状況及び所管課評価、あわせて令和元年度以降の実施予定について調査しています。

・所管課の評価については、次の 5 区分に分類しました。

「A：想定以上」、「B：想定どおり」、「C：工夫や改善必要」、「D：未実施」、「E：事業終了」

(2) 計画事業の所管課評価別の状況

計画事業の所管課評価別の状況を別表 1（4 ページ）にまとめました。

平成 30 年度から新たに実施した事業が 3 事業ありました。

92 事業のうち、	◇A：想定以上	20 事業	
	◇B：想定どおり	60 事業	
	◇C：工夫や改善必要	9 事業	
	◇D：未実施	1 事業	
	◇E：事業終了	2 事業	となっています。

(3) 計画事業の実施状況

計画事業を体系別に整理し、平成 30 年度の実施状況及び令和元年度以降の実施予定を別表 2（5～25 ページ）にまとめました。

(4) 計画策定後、令和元年度から新たに実施する事業

子どもの読書活動推進計画（第三次）は、平成 28 年 5 月に策定されましたが、その後取り組みの充実を図るために新たに実施する事業があります。

令和元年度から新たに実施する事業として「南池袋公園ブックシェルフ用図書展示」の事業計画を別表 3（26 ページ）に掲載しました。

【 所管課評価別の事業数 】

別表 1

1 体系別

計画の体系	事業数(重点)	所管課の評価				
		A 想定以上	B 想定 どおり	C 工夫や 改善必要	D 未実施	E 事業終了
I 子どもの読書活動の意義や大切さの普及・啓発	21項目 (7項目)	3	13	5	0	0
(1) 子どもを対象とする普及・啓発事業	4項目 (0項目)	2	1	1	0	0
(2) 保護者や家庭に対する普及・啓発	11項目 (7項目)	1	7	3	0	0
(3) 子ども施設の職員等への啓発	6項目 (0項目)	0	5	1	0	0
II 子どもが読書に親しむ機会の提供と読書環境の充実	71項目 (23項目)	17	47	4	1	2
(1) 子どもが身近で本にふれることができる環境の整備	23項目 (7項目)	5	17	1	0	0
(2) 子どもと本をつなぐ施策の充実	40項目 (16項目)	8	26	3	1	2
(3) 区立図書館の活用を推進するための諸施策	8項目 (0項目)	4	4	0	0	0
総 計	92項目 (30項目)	20	60	9	1	2

2 所管課別

所管課	事業数(重点)	所管課の評価				
		A 想定以上	B 想定 どおり	C 工夫や 改善必要	D 未実施	E 事業終了
地域区民ひろば課 ※	6項目 (1項目)		5	1		
文化デザイン課	4項目		3	1		
学習・スポーツ課	1項目 (1項目)			1		
図書館課 ※	49項目 (13項目)	15	26	5	1	2
池袋保健所(健康推進課)・長崎健康相談所	2項目 (1項目)		2			
子ども若者課	2項目		2			
子育て支援課	4項目 (2項目)		4			
保育課	6項目 (2項目)	1	5			
学務課(区立幼稚園含む)	2項目 (1項目)	2				
放課後対策課 ※	5項目 (1項目)	1	3	1		
指導課(区立幼稚園・小学校・中学校含む)	14項目 (9項目)	2	12			
計	95項目 (31項目)	21	62	9	1	2

※ 3事業については3課が所管している。

【 計画事業の実施状況 】

別表2

I. 子どもの読書活動の意義や大切さの普及・啓発

(1) 子どもを対象とする普及・啓発事業

No.	重点事業	新規事業	事業名	事業内容	対象	主な指標	第三次計画 (28～32年度)	実施状況 (30年度)	所管課 の評価	評価理由	31以降の 実施予定	課名
1			子ども向け図書利用案内の作成・配布	豊島区立図書館利用案内を〈小学校・幼稚園版〉と〈中学校版〉(新規)を作成し、幼稚園、小中学校へ配布し、区立図書館の利用を促進する。	小・幼稚園 中学生	毎年度、区立小学校新1年生に配布	毎年度関係施設へ配布	図書館利用案内配布施設数。 ・幼稚園 2 ・保育園 81 ・子ども家庭支援センター 2 ・区民ひろば 26 ・区立小学校 22 ・池袋保健所 ・長崎健康相談所	B: 想定どおり	例年どおり新小学1年生へ区立図書館の利用案内を配布した。	継続実施	図書館課
2			子ども向け各種行事の実施	子ども読書の日(4月23日)や文字・活字文化の日(10月27日)などの記念の日にならむ行事を実施し、8月中旬には平和普及事業として関連図書の企画展示などをして、記念の日の意義や図書を周知・啓発する。	小学生	・子ども読書の日 ・文字・活字文化の日 ・平和普及事業	毎年度実施	各種行事参加児童数 ・子ども読書の日87 ・文字・活字文化の日60 ・冬のスペシャルおはなし会199	C: 工夫や改善必要	スペシャル事業への参加者数の増を図るため、周知方法等の多様化などの見直しが必要である。	継続実施	図書館課
3			区立小・中学校RCフェスタの開催	区立小・中学校、区立図書館と連携して「RC(Reading and Comunication)フェスタ」を開催し、教育委員会推薦図書の普及・啓発、本との出会いや読書の楽しさを伝え、読書習慣の形成を図る。	小・中学生	実施回数	年1回	平成30年12月15日(土)としまセンタースクエアにおいて、読書感想文コンクールの表彰・発表会、読書活動と関連した英語活動の発表会を実施した。	A: 想定以上	想定以上の学校が参加し実施することが出来たため。	継続実施	指導課
4			点字図書館サービスのPR	点字図書館サービス(点訳・音訳・対面朗読サービス等)を紹介するパンフレットやCDを作成・配布し、特別な支援を必要とする子どもの利用を促進する。	特別な生支援を必要とする児童	・パンフレットの作成 ・CD版パンフレットの作成	必要に応じてパンフレット・CD等を改訂	施設見学等の際にパンフレットを配付するとともに、広報としま1月21日号に「ひかり文庫(点字図書館)をご存知ですか?」を掲載した。	A: 想定以上	広報に掲載することにより、より多くの方に周知することができた。	継続実施	図書館課

(2) 保護者や家庭に対する普及・啓発

No.	重点事業	新規事業	事業名	事業内容	対象	主な指標	第三次計画 (28～32年度)	実施状況 (30年度)	所管課 の評価	評価理由	31以降の 実施予定	課名
5	重		乳幼児健診時の絵本の読み聞かせとブックリストの配布	乳幼児と保護者を対象に絵本の読み聞かせを行い、図書館利用のPRとブックリストを配付して家庭での読書を推進する。	乳幼児・保護者	・パパ・ママ準備教室 ・1歳6か月児健診	毎年度実施	池袋保健所(パパ・ママ準備教室)と長崎健康相談所(1歳6か月児健診)で、各12回絵本の読み聞かせとブックリスト配付を行った。	B: 想定どおり	予定どおり各会場で12回実施した。	池袋保健所移転に伴い、仮施設での事業継続は池袋保健所が検討中。長崎健康相談所の事業は継続実施。	図書館課
6			ブックリストの作成・配布	乳幼児及び児童向けのブックリストを作成し、保育園、幼稚園、区立小学校等に配布するとともに、図書館で開催する行事などの機会に子どもや保護者に配布して読書活動を啓発する。	小・中学生 保護者	配付先施設数(保育園、幼稚園、区民ひろば、保健所)・区立小中学校(全校生徒)	改定時に配付	乳幼児向けブックリスト配布施設数。 ・幼稚園 2 ・保育園 81 ・子ども家庭支援センター 2 ・区民ひろば 26 ・池袋保健所 ・長崎健康相談所	B: 想定どおり	西武百貨店でのおはなし会でも、ブックリストを配布した。	継続実施	図書館課
7	重	28新	子育てインフォメーション活用による図書館利用の促進<新規>	子育て中の保護者への情報発信として、子育てインフォメーションと連携して、図書館で主催する行事のパンフレットやブックリストを配布し、読書活動や図書館利用を促進する。	保護者	各種行事の情報提供	毎月行事チラシを配布	・おはなし会カレンダー 毎月 ・スペシャルおはなし会 5回	B: 想定どおり	子育てインフォメーションへのチラシ提供による図書館行事の周知を行い、図書館利用の促進を図った。	継続実施	図書館課
8			子ども向け図書館ホームページ充実による家庭における読書活動の啓発	保護者に読み聞かせのすすめや絵本の選び方、絵本やブックリストの紹介、おはなし会等の案内を掲載し、家庭における読書活動を啓発する。	高校小生・中学生 保護者	特集欄の紹介	毎月(YAは隔月)	・特集展示 毎月 ・全館児童共通行事 7回 ・YAおすすめ本紹介 毎月 ・各館児童行事の周知	B: 想定どおり	各館主催の各種児童行事を図書館HPで周知を行った。	来年度は図書館IHPのシステム更新があり、さらに利用者への周知方法の改善を図る。	図書館課
9	重		大人のための子どもの読書を考える講座の開催	家庭教育学級の中で、保護者向けに子どもの読書活動を考えるきっかけとなるような各種講座を開催する。	保護者・家庭	参加人数	第二次までの取組みを継続	家庭教育学級としては8講座実施した。	C: 工夫や改善必要	子どもの読書活動の視点が欠けていたため。	講座会場のみらい館大明ブックカフェと連動して行う。	学習・スポーツ課
10	重		子どもスキップ保護者会等での子ども読書に関する啓発	保護者会等で、良質な長く読み継がれている本を紹介し、読書の意義や大切さを啓発する。	保護者	実施施設数	全てのスキップで実施	所長や校長が推薦する本を紹介するコーナーを設置した。(3施設)	C: 工夫や改善必要	全施設で実施するよう働きかける必要がある。	継続実施	放課後対策課

11	重		保育園を通じた保護者への子ども読書に関する啓発	保護者会や園だより等で、子どもが喜んで手にしている絵本や保育園で長く読み継がれている本などを紹介する。	保護者	絵本の紹介	全園で実施	・全園で実施した。 ・保護者会やクラスだよりなどで、子どもたちの好きな絵本・興味を持っている本などを紹介した。	B: 想定どおり	各保育園で工夫を凝らし、保護者に絵本を紹介することで、保護者への啓発に取り組んでいるため。	継続実施	保育課
12	重		保護者会等を通じた児童の読書活動に関する啓発	保護者会や学校だよりを通じて、子どもの読書活動の意義や大切さ、図書の情報等を提供する。	小保護者	図書だよりの発行	学期ごとに1回発行	図書館だより、学校だより、学年便り等のツールを使って、保護者に読書活動の推進をよびかけた。	B: 想定どおり	定期的に情報を発信することが出来ているため。	継続実施	小指導課
13	重	28新	鬼子母神Plusにおける図書コーナー設置による啓発<新規>	池袋保健所1階に設置した若者向け健康情報スペースに、地域の書店等との連携で本屋さんの推薦図書や育児雑誌コーナーを設置し、乳幼児と保護者向けに絵本や本を展示、紹介する。	区民	月替りで書籍紹介	毎年度12回	年12回展示のうち子育てや子ども向け絵本展示5回 ・子育てに関する本 ・動物園の絵本 ・芸術に関する絵本 ・クリスマスにプレゼントしたい本 ・入学に関する本	B: 想定どおり	推薦図書を見た保護者が家庭で読むため書店に購入に行くなど啓発の効果がみられるため。	継続実施	健康推進課
		29新	公民連携を活用したおはなし会の実施	西武百貨店屋上及び子どもフロアや南池袋公園内カフェ(ラシーヌ)等の民間企業との連携によるおはなし会を実施することで、図書館の利用促進及び読書活動の大切さを普及・啓発する。	保護者・乳幼児	・公民連携おはなし会実施回数 ・公民連携おはなし会参加者数	毎年度11回実施 参加者数340人	西武百貨店との連携おはなし会を、10回実施し、434人参加した。	A: 想定以上	連携事業者数は西武百貨店1社に減少したが、参加者数が目標値を上回った。	西武百貨店との連携事業は継続実施。	図書館課
		30新	読書ノート～パパ・ママの読み聞かせノート～配付による読書活動の普及・啓発	乳幼児のおはなし会や未就学児対象のイベントに参加する保護者に読書ノートを配付し、家庭における読書活動を促進する。	乳幼児	読書ノート配付数	毎年度配付数1,000冊	未就学児対象の図書館行事で、イベント参加の保護者に読書ノート～パパ・ママの読み聞かせノート～を789冊配布した。	C: 工夫や改善必要	未就学児対象行事での配付を徹底し、読書ノート活用による子どもへの読書活動を啓発を強化する。	継続実施	図書館課

(3) 子ども施設の職員等への啓発

No.	重点事業	新規事業	事業名	事業内容	対象	主な指標	第三次計画(28～32年度)	実施状況(30年度)	所管課の評価	評価理由	31以降の実施予定	課名
14			区立図書館の講習会を活用した職員のスキルアップ	図書館主催の子ども読書に関する講習会を活用し、ひろば職員の読み聞かせ技術のスキルアップを図る。	ひろば職員	図書館講習会受講	22施設	図書館主催の講習会を7月・2月に実施。7施設8名の子育て担当職員が参加し日常業務に生かした。	B: 想定どおり	勤務体制の難しさもあるが、想定どおりであるため。	受講していない職員は積極的に受講するよう呼びかけスキルアップを図る。	地域区民ひろば課

15	28 新	読書に関する講習会の開催<新規>	電子書籍等の読書に関する新しい媒体について、適切な活用方法を学ぶ講習会を開催する。	区民ひろば課職員	講習会の開催	・28年度職員研修「講習会」開催 ・29年度以降区民向け講習会を各区分民ひろばで開催	前年度からの経緯を踏まえて、区民ひろばにおいては、読み聞かせの充実、親子の触れ合い、よりよい絵本の提供などの事業の充実を図っている。	C:工夫や改善必要	29年度に所長会における講習会で電子書籍等の読書に関する現状や基礎知識を共有したうえで、区民向け講習会の開催については引き続き検討が必要であるため。	電子書籍等の読書に関する情報収集を図っていく。	地域区民ひろば課
16		児童・YAサービスへの充実に向けた職員研修の実施	児童・YAサービスの向上のため、図書館課が主催する研修や専門研修等により職員のスキル、資質の向上に取り組む。	図書館職員	・子どもの読書に関する講習会(回数・受講者数) ・児童図書館専門研修(受講者数)	2回	子どもの読書に関する講習会(2回開催)を30名が受講し、東京都児童図書館専門研修を4名が受講した。	B:想定どおり	予定していた研修を受講した。	継続実施	図書館課
17		子どもの読書に関する講習会の開催	年2回、子ども読書ボランティア、子ども施策関係部署職員、図書館職員等を対象に講習会を開催し、子どもの読書支援に関するスキルアップや資質の向上を図る。	関係部署区民職員	講習会	2回	講習会を2回実施した。 7月11日「わらべうた」74名 2月7日「じゃばら絵本のワークショップ」54名	B:想定どおり	予定どおり2回開催し、定員に達した。	2回開催	図書館課
18		職員への読書に関する研修の実施	子ども職場の職員を対象とする「子ども福祉研修」で、子どもと本や読書に関わる研修を実施して、子どもの読書支援のスキル向上を図る。	職員	開催回数	年1回開催	職員を対象とした子ども福祉研修にて「絵本を使ったふれあい遊び」を実施。、区民対象の子ども講座にて「絵本の世界」を実施。	B:想定どおり	保育園、スキップ、区民ひろば等、それぞれの職員が施設の利用対象児に合った絵本の活用方法や、子どもの成長と絵本との関係などを学ぶことができていたため。	継続実施	子ども若者課
19		職員のスキルアップと資質の向上	「子ども福祉研修」はじめ各種研修や講習会等への職員参加により、本と子ども達を結びつけるためのスキルアップと資質向上を図る。	職員	・研修への参加 ・勉強会実施	全園で実施	・ほぼ全園で実施した。 ・子ども福祉研修などの研修や講習会に参加した職員が、参加しなかった他の職員にも職員会議で報告し、園全体としてスキルアップと資質向上を図った。	B:想定どおり	積極的に研修会や勉強会に参加することはもちろん、参加者が他の職員への共有を行っているため。	継続実施	保育課

Ⅱ. 子どもが読書に親しむ機会の提供と読書環境の充実

(1) 子どもが身近で本にふれることができる環境の整備

【乳幼児】

No.	重点事業	新規事業	事業名	事業内容	対象	主な指標	第三次計画 (28～32年度)	実施状況 (30年度)	所管課 の評価	評価理由	31以降の 実施予定	課名
20			地域区民 ひろばの 本のある 環境づくり の推進	計画的な図書購入とリサイクル本の活用などで、子育てひろば等に本のある環境作りを行う。	関係機関	年度当初に図書購入予算措置	22施設	・各ひろばに配当する子育て事業経費を活用し読書スペースの充実をはかった。 ・リサイクル本の活用 22施設中18施設	B: 想定どおり	区民ひろば毎の状況に応じ、本のある環境づくりを行なったため。 リサイクル本活用も定着してきている。	子どもの興味のある絵本の購入とゆつくり楽しめる環境の工夫をしていく。	ひろば区民
21			乳幼児向けブックリスト図書コーナーの設置	乳幼児向けブックリストに掲載されている絵本のコーナーを設置して、保護者や乳幼児が本を手取る機会を増やす。	乳幼児	乳幼児向けブックリストの掲載図書コーナーを設置	事業を継続	全館でブックリストの掲載本コーナーを設置し、利用促進を図った。	B: 想定どおり	ブックリストによる推薦とリスト掲載図書展示コーナーとの連携により、図書館がおすすめする本を利用しやすい環境を保持している。	継続実施	図書館課
22			リサイクル図書の子ども施設での活用	区立図書館で除籍処理した図書を、希望に応じて子ども施設へリサイクル図書として提供し活用する。	小・乳 中 幼 学 児 校	リサイクル図書提供施設数・冊数	区内保育園、幼稚園、区立小・中学校、子ども施設と連携	881冊をリサイクル図書として公共施設へ提供した。	A: 想定以上	前年度の約2倍のリサイクル図書を子ども関連施設へ提供し、図書の有効活用を図った。	継続実施	図書館課
23			保健所の絵本コーナーの充実	乳幼児健診会場にブックリスト『ねえ、よんで』掲載図書の絵本コーナーを設置している。	乳幼児・保護者	健診来所者数	26,500人	常時20冊程度を入れ替えながら設置した。 健診来所者数 16,000人	B: 想定どおり	健診の待ち時間に自由に絵本を手に取り読んでいる。	継続実施	長崎健康推進所
24	重		子ども家庭支援センターの絵本コーナーの充実	親子あそび広場、一時保育室、発達支援室に絵本コーナーを設置して、親子が本に親しむ環境を整備する。	乳幼児・保護者	各事業利用者数	378,000人	<東西子ども家庭支援センター> ・一時保育利用人数 年間24,850人 ・親子あそび広場利用人数(子ども) 年間21,642人 <西部子ども家庭支援センター> ・発達支援事業利用児童数 年間6,048人	B: 想定どおり	各事業利用者数合計が前年度に比べやや減っているが、絵本の数や内容は充実してきているため。	継続実施	子育て支援課

25	重	保育園の家庭への貸出	各園に絵本コーナーを設置して絵本に親しむとともに、園児の保護者や地域の親子に絵本の貸出を行う。	地域の保護者・園児	絵本コーナーの設置	全園で実施	・全園で実施した。 ・絵本の貸出コーナーの設置はもちろろん、絵本の入れ替えや修理などを通して親子で絵本に親しめるように各園で工夫をした。	B: 想定どおり	各保育園で貸出環境を整えることで、家庭でも絵本に親しむ工夫をしているため。	継続実施	保育課
26		保育園の図書等の整備と充実	区立図書館の団体貸出利用やリサイクル図書の活用、近隣の方からの寄贈図書などを活用して、保育園の読書活動の整備を図る。	全園児	区立図書館のリサイクル図書利用、近隣の方からの寄贈。	全園で実施	・全園で実施した。 ・団体利用やリサイクル本をもらいに行く等図書館の活用や、近隣の方や卒園児保護者からの寄贈により各園で図書の充実を図った。	B: 想定どおり	全園で実施している点や園ごとの工夫がみられるため。	継続実施	保育課
27		幼稚園の蔵書の充実	幼児の興味や教育内容に応じて、絵本等を購入し蔵書の充実を図る。	全園児	購入図書	40冊	園平均86冊	A: 想定以上	目標の購入数を大幅に超えたため。	引き続き蔵書の充実を図る。	区立幼稚園
28	重	幼稚園の家庭への貸出	幼稚園が蔵書している図書を、家庭へ貸出す。	全園児	貸出回数	35回	毎週1回程度、幼稚園が蔵書している図書を、家庭へ貸出している。	B: 想定どおり	各幼稚園の実態に応じて実施しているため。	継続実施	区立指導課

【小学生】

No.	重点事業	新規事業	事業名	事業内容	対象	主な指標	第三次計画(28～32年度)	実施状況(30年度)	所管課の評価	評価理由	31以降の実施予定	課名
22			リサイクル図書の子ども施設での活用	再掲	小・乳 中 学 児 校	再掲	再掲	再掲		再掲	再掲	図書館課
29			郷土資料に関する資料の充実・公開・調べ学習支援	郷土資料館が収蔵資料を充実させるとともに、資料のデータベース化とその資料の公開による活用をすすめる。郷土資料の調べ学習に関する電話や窓口におけるレファレンスを行う。	小・中学生	随時	・郷土に関する図書資料(子ども向けを含む)を購入・寄贈等により収集 ・電話や窓口における支援(レファレンス)を実施 ・区ホームページ内の「キッズページ」に区の歴史などを紹介するページを作成 ・郷土資料館に設置している利用者端末にクイズ形式で区の歴史などが楽しめるコンテンツを作成	・生活資料や文書資料、受け入れ図書等約3000件のデータ化を行った。 ・調べ学習のレファレンスに随時対応を行うとともに、企画展「鏡の前の暮らしー身だしなみの道具ー」の展示期間中に展示見学「郷土資料館で学ぶくらしのうつりかわり」を実施し、12校の小学校の見学に対応した。	B: 想定どおり	区民の方から寄贈を受けた生活資料や文書資料を適切にデータ化し、必要に応じ、調べ学習のレファレンスや小学校3年生の社会科授業の「むかしのくらし」単元に対応するべく活用しているため。	継続実施	文化デザイン課

30			雑司が谷旧宣教師館の児童図書コーナーの充実	雑司が谷旧宣教師館に児童図書コーナーを設置し、「赤い鳥」等を収集し、見学者の閲覧に供する。	小・中学生	随時	雑司が谷宣教師館でも、児童図書コーナーの運営と「赤い鳥」等の地域に関わる児童図書資料の収集を継続	雑司が谷旧宣教師館の児童図書コーナーで「赤い鳥」をはじめとする児童図書を開覧に供するとともに、「赤い鳥」を語り継ぐおばあちゃんのおはなし会を毎月実施し、周知を行った。	B: 想定どおり	雑司が谷旧宣教師館の入館者における小中学生の割合はまだ少ないのが現状である。おはなし会等を通じて、児童図書コーナーの周知を図っていくため。	継続実施	文化デザイン課
31			小学生向けブックリストの図書コーナーの設置と図書の充実	小学生向けブックリスト『よんでみよう』に掲載した図書のコーナーを全館に設置して、読書活動のきっかけを作る。	小学生	特集展示	12回	2019年度版ブックリスト掲載図書「ねえ、よんで」13冊と「ほんのしまとしま」11冊を常設展示し、利用促進を図った。	B: 想定どおり	ブックリスによる推薦と掲載図書展示コーナーとの連携により、図書館がおすすめする本を利用しやすい環境を保持している。	継続実施	図書館課
32			外国語図書等の整備・充実	外国語の絵本や日本人作家の外国語版の図書等を収集・所蔵して、外国人等の図書館利用の利便性を高める。	小・中学生	・外国語の絵本 ・日本の作家の外国語版	全館で購入	全館で韓国語142冊、中国語242冊、英語98冊を購入した。	A: 想定以上	東アジア文化都市事業として全館で韓国語と中国語児童書数を増やした。	東京オリンピック開催に向け、継続して収集する。	図書館課
33			郷土に関する図書資料等の収集の充実と提供	豊島区の歴史や民話、豊島区に関わる作家の作品等を積極的に収集・所蔵し、提供する。地域資料のデジタル化を進める。	小・中学生 高校生	郷土資料を収集	収集を継続	としまむかしばなし12点、駒込小学校街歩き地図1点、さくらアートコンテスト駒込中学校卒業記念12点のデジタル化を実施した。	B: 想定どおり	地域資料のデジタル化を進めている。	継続実施	図書館課
34	重	28新	オリンピック・パラリンピックに関連づけた読書活動の推進<新規>	オリンピック大会の開催を機会に、世界各国の歴史・文化・習慣などを学び、知識や情報を得るための企画展示や関連図書をすすめて、読書活動を支援する。	小・中学校	企画展示	区立図書館 区立小・中学校	8月25日～9月21日全館で「東京でもてなし～56年ぶりの夢」でオリンピック関連の図書の特集展示とブックリスト55部を配付した。	B: 想定どおり	計画通り企画展示を実施した。	継続実施	図書館課
35			子どもスキップの読書コーナーの充実	子どもスキップの読書コーナーの蔵書を、区立図書館の団体貸出等を活用して充実させ、利用する小学生の読書活動を推進する。	小学生	実施施設数	全てのスキップで実施	読書コーナー図書は、図書ネット便を利用、または子どもたちのリクエスト図書を購入した。(19施設)	B: 想定どおり	図書ネット便を有効活用していた。	継続実施	放課後対策課

36	重	学校図書標準を基準とした学校図書館資料の充実	小中学校の学校図書館の蔵書を、学校図書標準を基準に整備・充実する。	小学生	学校図書標準	70～80%になるように継続	・各学校、学校図書標準の達成に向け、図書の整備充実を図っている。 ・学校図書標準を満たした小学校の割合 82% 22校中18校)	A: 想定以上	年度当初の目標70%を達成したため	学校図書標準を達成した小学校が85%を超える。	学務課
				中学生	学校図書標準	70～80%になるように継続	・各学校、学校図書標準の達成に向け、図書の整備充実を図っている。 ・学校図書標準を満たした中学校の割合 100% 8校中8校	A: 想定以上	すべての中学校が学校図書館図書標準を達成したため。	生徒数・学級数が増えているが、引き続き学校図書標準を全中学校が達成する。	学務課

【中学生】

No.	重点事業	新規事業	事業名	事業内容	対象	主な指標	第三次計画(28～32年度)	実施状況(30年度)	所管課の評価	評価理由	31以降の実施予定	課名
29			郷土資料に関する資料の充実・公開・調べ学習支援	再掲	小・中学生	再掲	再掲	再掲		再掲	再掲	文化デザイン課
30			雑司が谷旧宣教師館の児童図書コーナーの充実	再掲	小・中学生	再掲	再掲	再掲		再掲	再掲	文化デザイン課
32			外国語図書等の整備・充実	再掲	小・中学生	再掲	再掲	再掲		再掲	再掲	図書館課
33			郷土に関する図書資料等の収集の充実と提供	再掲	小・高・中学生	再掲	再掲	再掲		再掲	再掲	図書館課
34	重	28新	オリンピック・パラリンピックに関連づけた読書活動の推進<新規>	再掲	小・中学校	再掲	再掲	再掲		再掲	再掲	図書館課

36	重		学校図書標準を基準とした学校図書館資料の充実	再掲	小学生	再掲	再掲	再掲		再掲	再掲	学務課
					中学生	再掲	再掲	再掲		再掲	再掲	学務課
37			YAコーナーの図書等の充実・優先閲覧席の設置	区立図書館に10代の子どもの優先閲覧席を整備し、YAコーナーの図書等を充実させる。	中学生・高校生	優先席の設置	全館に優先席を整備	池袋図書館を除く6館で優先席を配置している。	B: 想定どおり	池袋図書館は改修工事まで施設内配置上、設置困難である。	池袋図書館は、令和2年度のリニューアル工事でYA優先席を設置予定。	図書館課
38			ジャンプ(東池袋・長崎)の読書コーナーの充実	ジャンプ2施設の読書コーナーを充実させ、利用する中高校生の読書活動を支援する。	中学生・高校生	実施施設数	ジャンプ2施設で実施	・近隣図書館から利用者が興味を持っている分野の本を「団体貸出」にて月1回入替を行った。 ・またボランティアで保育園などに紙芝居などの読み聞かせ体験を行った。	B: 想定どおり	受付横にYA図書を置くことで、身近に本を感じられる環境を整えるため。	団体貸出については例年通り行う。 ボランティアの人数を増やしていく。	子ども若者課
39	重		学級文庫の実施・充実	図書委員等が選書した図書を各クラスに備えた学級文庫に設置し、教室で生徒が身近に本に接する環境を整え、読書活動に結びつける。	中学生	学級文庫を設置	8校 (区立中学校)	学級文庫として図書委員おすすめの本10冊を教室置きにし、委員会の度に入れ替えを行った。	B: 想定どおり	各学校の実態に応じて実施しているため。	継続実施	中指導校課
40			学校図書館廃棄本のリサイクル	学校図書館の蔵書整理により廃棄になる図書のリサイクルコーナーを設置するなどして、生徒にリサイクル本を提供し読書活動につなげる。	中学生	リサイクルコーナーの設置	8校 (区立中学校)	年に1～2回、廃棄本コーナーを設け、希望する生徒に渡すなど、リサイクル活動をした。	B: 想定どおり	各学校の実態に応じて実施しているため。	継続実施	中指導校課

【高校生】

No.	重点事業	新規事業	事業名	事業内容	対象	主な指標	第三次計画(28～32年度)	実施状況(30年度)	所管課の評価	評価理由	31以降の実施予定	課名
37			YAコーナーの図書等の充実・優先閲覧席の設置	再掲	高校生	再掲	再掲	再掲		再掲	再掲	図書館課
38			ジャンプ(東池袋・長崎)の読書コーナーの充実	再掲	高校生	再掲	再掲	再掲		再掲	再掲	子ども若者課

【特別な支援を必要とする子ども】

No.	重点事業	新規事業	事業名	事業内容	対象	主な指標	第三次計画 (28～32年度)	実施状況 (30年度)	所管課 の評価	評価理由	31以降の 実施予定	課名
41			点字図書・録音図書(音声デジター)・テキストデジターや点訳絵本等の充実	視覚に障害がある子どものために、ボランティアの協力により点字図書、録音図書(音声デジター)、テキストデジターや点訳絵本などを作成・購入して、点字図書館の蔵書を充実する。	特別な支援を必要とする保護者・家庭 生徒・児童	①図書資料の充実 ②技術の習得 ③点訳絵本の作成	①点字図書25タイトル ②デジター図書35タイトル ③点訳絵本10タイトル	受け入れタイトル数 ①点字図書:自館製作36タイトル(内絵本6タイトル)・厚労省委託68タイトル ②デジター:自館製作96タイトル・厚労省委託51タイトル(内絵本7タイトル) ③テキストデジター:自館製作 20タイトル	A:想定以上	製作ボランティアの協力等により、年間計画数を上回る数を受け入れることができた。	継続実施	図書館課
42	重	28新	マルチメディアデジターの充実 <新規>	障害があり通常の本では読書が困難な子どものために、マルチメディアデジターの活用により、読書環境を整備する。	特別な支援を必要とする保護者・家庭 生徒・児童	マルチメディアデジターの充実	貸出回数の拡大	平成30年度以降4館でマルチメディアデジター図書の提供を行っているが、利用実績はない。	C:工夫や改善必要	周知方法の見直しを行い、活用を促進する必要がある。	継続実施	図書館課

(2)子どもと本をつなぐ施策の充実

【乳幼児】

No.	重点事業	新規事業	事業名	事業内容	対象	主な指標	第三次計画 (28～32年度)	実施状況 (30年度)	所管課 の評価	評価理由	31以降の 実施予定	課名
43			読書啓発活動の推進	地域の図書ボランティア団体や職員が、乳幼児を対象としたプログラムの読み聞かせ事業を実施する。	ボランティア	ボランティアの受入	22施設	・地域の読み聞かせボランティア事業の開催 22施設中14施設 7団体に依頼した その他、別の事業の講師が絵本の読み聞かせも取り入れてくれているケースもある。	B:想定どおり	目標どおりであったため。	継続実施	地域区民ひろば課

44	重	区立図書館読み聞かせボランティア活用による読書環境の充実	乳幼児のプログラムで開催しているおはなし会に、区立図書館の読み聞かせボランティア派遣を活用する。	保乳 護幼 者児	読み聞かせボランティアによるおはなし会の開催	22施設	・区立図書館の読み聞かせボランティアの実施 22施設中18施設で実施 落ち着いた語り口調で、利用者も親子で毎回楽しみにしている様子。	B: 想定どおり	目標どおりであったため。	継続実施	地域 区民 ひろ ば課
45		子どものための文化体験プログラムの実施	アート系NPO 法人と協働して、子どものときに読んでほしい本を題材とした演劇公演を開催する。また、絵本を活用したワークショップや読み芝居による鑑賞教室、絵本を取り入れた保育園派遣型プログラムを実施する。	小・乳 中幼 学児	参加者 数	乳幼児900人、小学生以上の区民2,780人	①あうるすぽっとにて、0歳から本格的な舞台を親子で楽しめる子どもに見せたい舞台シリーズを上演。また各区民ひろばで俳優たちが読み聞かせをするよみしばいを実施した。②絵本を取り入れた、アーティストによる派遣型ワークショップを、区内保育園5園で実施した。	B: 想定どおり	①メインプログラムである子どもに見せたいシリーズは12回目を迎え、2,000人以上が来場した。よみしばいは、各区民ひろばの協力もあり、今年も年齢層が広い観客層が安定的に集まった。②派遣型ワークショップについては、アーティストと触れ合うことで、普段とは違った園児の様子が垣間見え、園からも好評評価だった。	①演劇公演「春春～ポムポム～」をあうるすぽっとで、よみしばい「すずむしひめ」を区民ひろば6か所で上演する。 ②絵本を取り入れた保育園派遣型プログラムは、2園で実施する。	文化 デザ イン 課
46		読み聞かせボランティアの養成と子ども施設への派遣	読み聞かせボランティアを計画的に養成し、人材バンクに登録するとともに、子ども施設への派遣をコーディネートしてボランティアの活動を支援する。養成後にはスキルの維持向上のためのフォローアップ研修も実施する。	登 録 ボ ラ ン テ ィ ア	・養成 (隔年) ・養成人数 ・フォローアップ研修 (隔年)	奇数年度は養成講座、偶数年度はフォローアップ研修を隔年で実施 登録者数 60人	養成講座を実施し、ボランティア人材バンクに13名が新規登録した。	A: 想定以上	総登録者数が目標の60名を超える62名を確保できた。	登録者数が一定数に達したので、来年度は養成を休止する。	図 書 館 課
47		自主的な読み聞かせボランティアの活動支援	自主的に活動している読み聞かせボランティアを対象に講習会を実施し、読み聞かせの技術の維持向上を支援する。	区 民	講 習 会	2回	講習会を2回実施した。 7月11日「わらべうた」74名 2月7日「じゃばら絵本のワークショップ」54名	B: 想定どおり	ボランティアの活動支援となる内容の講習会を、予定どおり2回実施した。	2回実施する。	図 書 館 課
48		「赤ちゃんおはなし会」など乳児向け行事の開催	乳児と保護者が一緒に楽しむことができる、絵本の読み聞かせやふれあい遊び等の「赤ちゃんおはなし会」を定例的に開催する。	乳 幼 児	赤 ち ゃ ん お は な し 会 実 施 回 数	事業を継続	乳児のおはなし会 133回 1,801人参加	B: 想定どおり	全館で月1回の定期的な開催により参加者が定着している。	継続実施	図 書 館 課
49		おはなし会等幼児向け行事の開催	定期的な「おはなし会」とともに、子どもと本をつなぐきっかけとなる各種行事を実施する。	幼 児 ・ 小 学 生	子 ど も 向 け お は な し 会	事業を継続	幼児のおはなし会 311回 3,474人参加	B: 想定どおり	定期的に幼児向けおはなし会を全館で実施した。	継続実施	図 書 館 課

50			読み聞かせボランティア活用による「親子あそび広場」のプログラムの充実	ボランティア活用による読み聞かせを実施する。	乳幼児	読み聞かせ回数	225回	<東部子ども家庭支援センター> ・「おはなしもんたん」年12回 ・「豊島親子の読書の会」年6回 ・「中央図書館読み聞かせ」年6回 ・「リプリント」年6回 <西部子ども家庭支援センター> ・「うりんぼうの読み聞かせ」年12回実施 ・「ひまわりの読み聞かせ」年11回実施	B: 想定どおり	読み聞かせ実施回数は前年度と大きな増減がないため	継続実施	子育て支援課
51	重		絵本のプレゼント実施	妊娠中から1歳の誕生日までの妊婦向け事業・講座、育児講座等の参加者やバースデイ訪問などで絵本を配布し、読み聞かせや本に触れる機会を作る。	妊婦 〜 1歳	・講座参加者、 ・バースデイ訪問者数	5,500人	<東西子ども家庭支援センター> ・育児訪問事業バースデイ訪問にて対象児に絵本を1冊プレゼント実施。年間993人 ・ウィルカム赤ちゃん、母親学級、スマイル講座、パパの応援講座実施時に配布。年間474人	B: 想定どおり	講座参加者、バースデイ訪問者数合計が前年度と大きな増減がないため	継続実施	子育て支援課
52			絵本の読み聞かせや行事の実施により、ものごと知識に触れる機会の充実	日常の保育の中に絵本の読み聞かせや紙芝居を取り入れ、また、自然を利用した行事を実施することで、想像力を育み、新しい知識を蓄える機会を作る。	園児	読み聞かせや知識の世界に触れる回数	全園で実施	・全園で実施。 ・日常的に絵本や紙芝居などの読み聞かせを行っている。 ・行事の際には、いわれなどの話をするなどで、新しい知識に触れる機会を作っている。	B: 想定どおり	日常の保育の中での絵本の読み聞かせを継続的にを行っている点や、行事を活用した取組が積極的に行われているため。	継続実施	保育課
53			地域の読書ボランティアの活用	読書ボランティアを活用したり、小中高生との読書活動の交流で読書活動を推進する。	中学生・高校生 区民	受け入れ交流回数	60回	・87回実施。 ・中学生の職場体験、地域や図書館のボランティアによる読み聞かせを実施した。	A: 想定以上	実施回数は87回であり、昨年の57回に比べると大きく伸びたことで目標値を大きく超えたため。	継続実施	保育課
54			保護者による読み聞かせ活動の実施	「おはなしりんご」など各園のおはなし会で、保護者による読み聞かせを実施する。	全園児	実施回数	園により5〜12回	・各学期2回程度、保護者による読み聞かせを実施した。	B: 想定どおり	各幼稚園の実態に応じて実施している。	継続実施	区立幼稚園 指導課

【小学生】

No.	重点事業	新規事業	事業名	事業内容	対象	主な指標	第三次計画 (28～32年度)	実施状況 (30年度)	所管課 の評価	評価理由	31以降の 実施予定	課名
45			子どものための文化体験プログラムの実施	再掲	小・乳 中幼児 生	再掲	再掲	再掲		再掲	再掲	文化デザイン課
55			子ども向け郷土資料の作成支援	地域の昔遊びや豊島の子ども文化、昔話を調査・収集し、地域のボランティアの著作・出版活動を支援する。	小学生	随時	地域のボランティア団体の要請に応じた支援を継続	地域に関する問い合わせ等に随時対応を行った。	C:工夫や改善必要	地域の昔遊びや豊島の子ども文化を伝えていくことは区の重要な責務であるが、聞き取り調査ができる方の把握が十分にできていない。また現状著作・出版活動の支援も行っていない。	必要に応じて対応していく。	文化デザイン課
56	重		小学生向け行事の実施	定例的なおはなし会の他、季節にちなんだ「スペシャルおはなし会」や「映画会」、「工作会」等、子どもと本をつなぐ様々な行事を開催する。	小学生	全館で実施	毎年度実施	<ul style="list-style-type: none"> ・全館共通事業 5回 2,767人 ・工作会 33回 624人 ・映画会 16回 335人 ・その他行事 54回 2,660人 	B:想定どおり	各種新規イベントを開催し、小学生の来館に繋げた。	イベント内容や開催日程などを検討して、継続実施する。	図書館課
57			学校訪問・学級招待・職場体験等による学校支援	学校訪問・学級招待・職場体験等を通じて、図書館の仕事や利用方法の紹介をするとともに、本の読み聞かせやブックトークなどで本を紹介して読書活動推進のきっかけづくりも行う。	小・中学生	【小学生】 ・学校訪問 ・学級招待 【中学生】 ・職場体験	<ul style="list-style-type: none"> 【小学生】 ・学校訪問 128回 ・学級招待 9回 【中学生】 ・職場体験 70人 	小学生の学校訪問152回、学級招待14回の学校サービスを行った。	A:想定以上	目標値を上回る各種学校サービスを実施した。	継続実施	図書館課
58			児童読書情報交換コーナーの充実	図書館利用者との読書情報交換のための掲示板を設置する。掲示板には、館内に設置した利用者の意見箱から収集した図書や読書に関する意見を掲示し、情報を提供し読書活動につなげる。	小学生	情報交換コーナーの設置を継続する。	情報交換コーナーを継続	おすすめ本紹介カードを掲示するとともに、紹介の図書を展示することで貸出を促進した。	B:想定どおり	紹介カードの図書を展示することで、相乗効果があった。	継続実施	図書館課

59	重	28新	読書通帳の配布<新規>	読書通帳を作成し、区立図書館を利用する小中学生を対象に希望者に配布し、読書活動促進のきっかけづくりを行う。	小・中学生	区立図書館	配布冊数	読書ノート678冊、読書通帳255冊を配布した。	C:工夫や改善必要	読書ノート・読書通帳の配付冊数が前年度の50%以下に減少した。イベント開催時の配布や周知方法の見直しが必要である。	継続実施	図書館課
60			読書の楽しさを伝える各種事業の実施	「子どもスキップ」の事業や放課後子ども教室のプログラムで、読み聞かせやストーリーテリングなどのおはなし会を開催し、読書の楽しさを啓発し、本と結びつけるきっかけづくりを行う。	小学生	実施施設数	全てのスキップで実施	子どもスキップ事業や子ども教室のプログラムでおはなし教室を開催(15施設)	B:想定どおり	定期的に放課後子ども教室でおはなし会を開催した。	継続実施	放課後対策課
61			地域の読書ボランティア活用によるおはなし会の開催	子どもスキップや放課後子ども教室のプログラムや事業において、地域の読書ボランティアを受け入れて読み聞かせなどのおはなし会を実施し、読書活動を推進する。	小学生	実施施設数	全てのスキップで実施	子どもスキップや子ども教室の事業として地域のボランティアを受け入れておはなし会を開催(18施設)	B:想定どおり	地域のボランティア方に来てもらいおはなし会を開催した。	継続実施	放課後対策課
62	重		学校司書の配置	学校図書館に専門的な知識・経験を有する学校図書司書を配置し、資料管理や調べ学習など授業支援を充実させる。	小学生	配置日数	22校(区立小学校)週2日	・28年度より図書館課所属の非常勤職員を一部の学校図書館に配置し、29年度から全校に非常勤職員を配置した。	A:想定以上	委託職員に比べ1日の配置時間が増え、より教職員との連携が図れたため。	継続実施	小指導校課
63		28新	学校図書館への区立図書館司書の活用<新規>	区立図書館の図書館司書(非常勤職員)を区立小・中学校の学校図書館司書として活用し、学校図書館の運営や児童・生徒の読書活動を支援する。さらに、図書館資料の教員への情報提供と多面的な学校支援を展開する。	小・中学生	小学校配置 中学校配置	29年度 区立中学校8校派遣	平成29年度に区立小・中学校全校に区立図書館司書を配置し、平成30年度に図書館課から指導課へ図書館司書を移管した。	E:事業終了	事業終了	30年度に指導課へ移管により事業終了	図書館課 指導課
64			読書習慣の形成	「朝読書」「読書の時間」、学校独自の読書推進期間の設定などにより、学校活動における読書時間の確保と読書活動の習慣の確立を支援する。	小学生	全校一斉の読書活動の実施	月1校	・校内での読み聞かせ活動 ・図書委員会による読書紹介 ・栄養士と連携した「お話し給食」の実施 ・「図書館だより」の発行	B:想定どおり	各学校の実態に応じて実施している。	継続実施	小指導校課

65			図書委員会活動による読書活動の推進	図書委員会活動を活発にし、図書委員の主体的で継続的な読書活動により学校図書館の利用を促進する。	小学生	各校の実態に応じた活動を実施	各校の実態に応じた活動を実施	・常時活動して、図書館の本の整備、新着図書の紹介一々に沿った本の紹介など、自主的な活動を推進している。	B: 想定どおり	各学校の実態に応じて実施している。	継続実施	小指導校課
	重	29新	読書ノートの配付による読書活動促進	区立図書館に利用登録のある小学生を対象に、読書ノートを配付することで、子どもの読書習慣促進のきっかけをつくる。	小学生	・図書館利用登録者数 ・区立図書館図書貸出冊数	毎年度実施	・利用登録者 10,722人 ・図書貸出冊数 364,976冊	A: 想定以上	登録者数及び貸出冊数が前年度比で増加した。読書ノート等の配付による新規登録への勧奨を進める。	継続実施	図書館課

【中学生】

No.	重点事業	新規事業	事業名	事業内容	対象	主な指標	第三次計画(28～32年度)	実施状況(30年度)	所管課の評価	評価理由	31以降の実施予定	課名
45			子どものための文化体験プログラムの実施	再掲	小・乳幼児 中学生	再掲	再掲	再掲		再掲	再掲	文化デザイン課
66	重		学校訪問・職場体験等による学校支援	学校訪問・学級招待・職場体験等を通じて、図書館の仕事や利用方法の紹介をするともに、本の読み聞かせやブックトークなどで本を紹介して読書活動推進のきっかけづくりも行う。	小・中学生	【小学生】 ・学校訪問 ・学級招待 【中学生】 ・職場体験	【小学生】 ・学校訪問 128回 ・学級招待 9回 【中学生】 ・職場体験 70人	中学生108人の職場体験を実施した。	A: 想定以上	各種学校サービスを実施が、目標値を上回った。	継続実施	図書館課
67			YA読書情報交換コーナーの充実	図書館利用者との読書情報交換のための掲示板を設置する。掲示板には、館内に設置した利用者の意見箱から収集した図書や読書に関する意見を掲示し、情報を提供し読書活動につなげる。	中学生・高校生	情報交換コーナーの設置を継続する。	情報交換コーナーを継続	情報掲示板を活用して利用者からの読書情報を提供している。	B: 想定どおり	利用者からの情報提供が継続的にあり、情報掲示板が活用されている。	継続実施	図書館課
59	重	28新	読書通帳の配布<新規>	再掲	小・中学生	再掲	再掲	再掲		再掲	再掲	図書館課

68	重	28新	YA向け読書活動促進行事の実施(仕掛け絵本のワークショップ)<新規>	ワークショップを開催して仕掛け絵本の立体的なしくみや紙の絵本の魅力を感じてもらい、各種行事を通じて読書意欲や読書活動への動機づけを行う。	中学生・高校生	ポップアップカードのワークショップ開催	毎年度1回実施	ポップアップカードのワークショップを1回開催した。	B:想定どおり	行事を通じて読書活動への動機づけを行った。	継続実施	図書館課
69	重		学校司書の配置	学校図書館に専門的な知識・経験を有する学校図書司書を配置し、資料管理や調べ学習など授業支援を充実させる。	中学生	配置日数	8校(区立中学校)週1日	・28年度より図書館課所属の非常勤職員を一部の学校図書館に配置し、29年度から全校に非常勤職員を配置した。	B:想定どおり	委託職員に比べ1日の配置時間が増え、より教職員との連携が図れたため。	継続実施	中指導校課
70	重	28新	学校図書館への区立図書館司書の活用<新規>	区立図書館の図書館司書(非常勤職員)を区立小中学校の学校図書司書として活用し、学校図書館の運営や児童・生徒の読書活動を支援する。さらに、図書館資料の教員への情報提供と多面的な学校支援を展開する。	小・中学生	小学校配置 中学校配置	29年度 区立中学校8校派遣	平成29年度に区立小・中学校全校に区立図書館司書を配置し、平成30年度に図書館課から指導課へ図書館司書を移管した。	E:事業終了	事業終了	30年度に指導課へ移管により事業終了	図書館課 指導課
71	重		読書習慣の確立	朝、学級活動前の10分間の朝読書活動を継続的に実施するなど、読書習慣の確立を支援する。	中学生	全校一斉の読書活動の実施	月1回	・全校生徒が本の紹介カードを記入し、全作品が図書室や廊下に掲示されている。 ・国語の授業ないで朝の読書で読んだ本のブックトークを実施している。	B:想定どおり	各学校の実態に応じて実施している。	継続実施	中指導校課
72	重		ビブリオバトル等実施による読書活動の促進	授業や図書委員会のイベントとしてビブリオバトル等を実施するなど、読書の感想を伝える場を設定して読書活動の推進と学校図書館利用を促進する。	中学生	本を読んで思ったことを伝える授業やイベント等を実施	8校(区立中学校)	・国語の授業で、ビブリオバトルを実施した。	B:想定どおり	各学校の実態に応じて実施している。	継続実施	中指導校課

73	重		図書委員会活動による読書活動の推進	図書委員会活動を活発にし、図書委員の主体的で継続的な読書活動により学校図書館の利用を促進する。	中学生	各校の実態に応じた活動を実施	各校の実態に応じた活動を実施	<ul style="list-style-type: none"> ・学級文庫として図書委員おすすめの本10冊を教室置きにし、委員会の度に入れ替えを行っている。 ・図書委員会で、しおりを作成し、本を借りた人、または上半期下半期などでクラス中一番多く借りた人などに、プレゼントしている。 ・国語科の授業で、おすすめの本を紹介したり、よく本を読んでいる人を紹介したりした。 ・本にブックマークをつけ、生徒用に和紙でカバーやしおりを作ったり、朝読書用のクラス設置本を毎月選んで入れ替えたり、ポスターやポップを作成し校内に掲示したりしている。 	B: 想定どおり	各学校の実態に応じて実施している。	継続実施	中指導課
74	重	28新	プライベート読書時間の設定<新規>	プライベートな時間に、一定の時間や時間帯を〔読書の時間〕と決めて、読書することを生徒に推奨して読書習慣の形成を促す。	中学生	図書だよりの発行	学期ごとに1回発行	一定の時間や時間帯を〔読書の時間〕と決めて読書する。	B: 想定どおり	各学校の実態に応じて実施している。	継続実施	中指導課

【高校生】

No.	重点事業	新規事業	事業名	事業内容	対象	主な指標	第三次計画(28~32年度)	実施状況(30年度)	所管課の評価	評価理由	31以降の実施予定	課名
67			YA読書情報交換コーナーの充実	再掲	高 中 校 学 生 生	再掲	再掲	再掲		再掲	再掲	図書館課
75	重	28新	YA向け読書活動促進行事の実施(ビブリオバトル)<新規>	仕掛け絵本のわーきショップや高校生を対象としたビブリオバトルなど、各種行事を通じて読書意欲や読書活動への動機づけを行う。	中 学 生 ・ 高 校 生	ワー ク シ ョ ッ プ ・ ビ ブ リ オ バ ト ル	毎年度1回実施	ビブリオバトルを1回実施した。	B: 想定どおり	行事を通じて読書活動への動機づけを行った。	1回開催する。	図書館課
76	重		学校訪問によるブックトーク等の実施	高等学校の要請により学校訪問を行い、ブックトークなどで10代に人気のおすすめ本を紹介し、図書館の利用や読書の動機づけを行う。	高 校 生	学 校 訪 問	高等学校からの要請	0回	C: 工夫や改善必要	申込がなかった。	学校からの申込を受付ける。	図書館課

【特別な支援を必要とする子ども】

No.	重点事業	新規事業	事業名	事業内容	対象	主な指標	第三次計画 (28～32年度)	実施状況 (30年度)	所管課 の評価	評価理由	31以降の 実施予定	課名
77			点訳・音訳・対面朗読サービスの実施	障害のある子どもからの申請に基づき、蔵書にないリクエスト資料について、ボランティアによる点訳・音訳・対面朗読サービスを実施する。	特別な支援を必要とする保護者・家庭 生徒・児童	①図書資料の充実 ②技術の習得 ③点訳絵本の作成	①点字図書 25タイトル ②デージー図書 35タイトル ③点訳絵本 10タイトル	プライベート製作数 ①点字図書3タイトル ②デージー図書1タイトル ③絵本作成 点訳絵本6タイトル・デージー絵本7タイトル ④対面朗読:132人実施	A:想定以上	情報提供施設として障害のある子どもの要望に応じ、点訳資料を製作した。	継続実施	図書館課
78			点字図書館や点訳図書等の普及・啓発	通常学級の子どもを対象に、職場体験等のプログラムで点字図書館の業務内容を組み込んだり、夏休みに開催する点字教室で点字体験をする機会を設けるなどして点字図書館や視覚障害者への理解を深めるきっかけづくりをする。	小・中学生	・学校訪問・学級招待 ・中学生職場体験 ・特別支援学校の職場体験	・小学校 3校 ・中学校 2校 ・特別支援学校 1校	子ども点字教室 8月4日開催 参加14名 学校訪問 小学校 1校 (点字教室を実施) 職場体験 中学校 1校 盲学校等11校	B:想定どおり	子ども点字教室については、定員を上回る申込みがあった。また、教室終了後は、希望者に施設見学も実施した。学校訪問についても例年複数の申し込みがある。	継続実施	図書館課
79			特別な支援を必要とする子どものための読書機会の提供	区立小・中学校の特別支援学級や大塚ろう学校に学校訪問して、読書のきっかけづくりを行うとともに団体貸出を実施する。	小・中学校	・学校訪問 ・団体貸出	学校からの要請	・小学校 職場体験 1回 団体貸出 18回、259冊 学校訪問 2回 ブックトーク 2回 ・大塚ろう学校 団体貸出 7回、238冊	A:想定以上	実績値が前年度を上回った。	継続実施	図書館課
80		28新	マルチメディアデージー活用による読書支援<新規>	区立小・中学校の特別支援学級への団体貸出に、マルチメディアデージーを活用して読書支援を行う。	小・中学校	・団体貸出	団体貸出回数 の拡大	マルチメディアデージーの資料整備が未実施	D:未実施	未検討	資料収集を検討する。	図書館課
81			特別な支援を必要とする子どもの読書活動の充実	乳幼児発達支援事業の療育活動において、絵本読み聞かせ等の読書活動を実施する。	障害児	通所指導時の読み聞かせ回数	2,400回	〈西部子ども家庭支援センター〉 発達支援事業 通所指導開所日数 述べ464日 フォローグループ 開所日数 延べ70日 合計年間延べ 534日	B:想定どおり	開所日数、療育活動の中の読み聞かせの頻度については変わらないため	継続実施	子育て支援課

(3)区立図書館の活用を推進するための諸施策

【乳幼児】

No.	重点事業	新規事業	事業名	事業内容	対象	主な指標	第三次計画 (28～32年度)	実施状況 (30年度)	所管課 の評価	評価理由	31以降の 実施予定	課名
82			「としょ ねっと」便 の運行	区立幼稚園、区立小・中学校、区内六大学へ交換便を運行して、図書館の図書貸出利用の利便を図り、読書活動を促進する。	幼児・ 大学生 ・小・ 中学生	運行回数	週2回の運行を継続	区立幼稚園、区立小・中学校、区内六大学へ85回、子どもスキップと区民ひろば(12施設)へ各12回、図書運搬便を運行した。	B: 想定どおり	年間のスケジュールどおりの日程で運行した。	令和元年度は区民ひろば22施設で図書ネット便による図書を送付予定。	図書館課
83			団体登録貸出制度による児童書の貸出	団体登録貸出により、保育園、幼稚園、区立小・中学校、その他子ども施設へテーマ別リクエストによる児童書の貸出をする。小・中学校へは団体貸出セットの貸出も実施する。	保育小 園・中 学 生 園	団体貸出回数	保育園・幼稚園80回	幼稚園・保育園へ691回の団体貸出を行った。	A: 想定以上	保育園の施設数増加に伴い保育園への団体貸出回数が増加している。	継続実施	図書館課
84			乳幼児向けブックリストの配布	0～2歳児向け、3～6歳児向けブックリストを作成し、図書館で配布するほか、保育園、幼稚園や関係施設に配布して読書活動を啓発し、区立図書館の利用促進に結びつける。	保護者	配付先施設数 (保育園、幼稚園、区民ひろば、保健所)	88所	129施設(区民ひろば、子ども家庭支援センター、保健所、保育園、幼稚園)へブックリストを送付した。	A: 想定以上	保育園の増加により、配布施設数が増加した。	毎年度改訂し、継続して発行する。	図書館課
85			子ども向け図書館ホームページの充実	図書館ホームページの「こどもページ」と「10代のためのページ」を充実し、推薦図書の紹介、催し物の案内、調べ学習に関する情報等を掲載し、図書館利用や図書資料の利用を活発にする。	乳幼児 高・小 ・中 学 生	特集棚の紹介をする	毎月 (YAは隔月)	毎月(YAは隔月)特集展示内容をHPで紹介した。	B: 想定どおり	ホームページへの掲載によるPRで、図書館利用を促進した。	継続実施	図書館課
		30 新	図書ネット便活用による区民ひろばへの団体貸出	区民ひろばを利用する乳幼児向けの絵本を図書館司書が選定し、毎月図書ネット便で配送することで読書活動を支援する。	乳幼児 ・小 学 生	・利用施設数 ・貸出回数	毎年度実施	新規事業として12施設へ、団体貸出図書を11回配送した。	B: 想定どおり	計画どお2施設のり試行から12施設で本格実施となった。	来年度は、22施設で本格実施をする。	地域 区民ひろば 図書館課

【小学生】

No.	重点事業	新規事業	事業名	事業内容	対象	主な指標	第三次計画 (28～32年度)	実施状況 (30年度)	所管課 の評価	評価理由	31以降の 実施予定	課名
82			「としよ ねっと」便 の運行	再掲	幼児・小・中学生 大学生	再掲	再掲	再掲		再掲	再掲	図書館課
85			子ども向け図書館 ホームページの 充実	再掲	乳幼児 高・小・中学生	再掲	再掲	再掲		再掲	再掲	図書館課
86			団体登録 制度による児童書 の貸出	団体登録貸出により、保育園、幼稚園、区立小・中学校、その他子ども施設へテーマ別リクエストによる児童書の貸出をする。小・中学校へは団体貸出セットの貸出も実施する。	保育園・中・幼稚園 小・中学生	団体貸出回数	小学校1,000回 中学校24回	小学校へ1,319回、中学校へ63回、その他の施設へ24回の団体貸出を行った。	A: 想定以上	小・中学校への学校図書館司書配置により、貸出回数が増加した。	継続実施	図書館課
87			ブックリストの配布	小学生、中・高校生向けブックリストを作成し、図書館で配布するほか、区立小・中学校や関係施設に配布して読書活動を啓発し、図書館の利用促進に結びつける。	小・中学生 高校生	区立小学校、中学校に配布	・区立小学校全校児童 ・区立中学校全校生徒	4月に区立中学校全校生徒、7月に区立小学校全校児童にブックリストを配付した。	B: 想定どおり	毎年改定し配布することで、読書活動を啓発する。	継続実施	図書館課
		30 新	図書ネット 便活用による子どもスキップへの団体貸出	子どもスキップからのリクエストに応じた図書を毎月図書ネット便で配送し、児童の読書活動を充実させる。	小学生	・利用施設数 ・貸出回数	30年度 13施設 31年度 16施設 32年度 19施設 各年度 11回	新規事業としてリクエスト申込による団体貸出を18施設、年間11回配送した。	A: 想定以上	放課後対策課の要望に基づき、全施設への図書配送を本格実施した。利用施設数が目標値を上回った。	継続実施	放課後対策課 図書館課

【中学生】

No.	重点事業	新規事業	事業名	事業内容	対象	主な指標	第三次計画 (28～32年度)	実施状況 (30年度)	所管課 の評価	評価理由	31以降の 実施予定	課名
82			「としょ ねっと」便 の運行	再掲	幼児・小・ 大学生・中 中学生	再掲	再掲	再掲		再掲	再掲	図書館課
85			子ども向 け図書館 ホーム ページの 充実	再掲	乳幼児・小・ 高校生・中 中学生	再掲	再掲	再掲		再掲	再掲	図書館課
86			団体登録 制度によ る児童書 の貸出	再掲	保育園・幼 小・中 学生・幼 稚園	再掲	再掲	再掲		再掲	再掲	図書館課
87			ブックリス トの配布	再掲	中 学生	再掲	再掲	再掲		再掲	再掲	図書館課

【高校生】

No.	重点事業	新規事業	事業名	事業内容	対象	主な指標	第三次計画 (28～32年度)	実施状況 (30年度)	所管課 の評価	評価理由	31以降の 実施予定	課名
85			子ども向 け図書館 ホーム ページの 充実	再掲	乳幼児・小・ 高校生・中 中学生	再掲	再掲	再掲		再掲	再掲	図書館課
87			ブックリス トの配布	再掲	高 校生	再掲	再掲	再掲		再掲	再掲	図書館課

A: 想定以上
 B: 想定どおり
 C: 工夫や改善必要
 D: 未実施
 E: 事業終了

【 新規事業の計画 】

平成31年度

Ⅱ 子どもが読書に親しむ機会の提供と読書環境の充実

(2)子どもと本をつなぐ施策の施策の充実

事業名	事業内容	対象	主な指標	第三次計画 (29～32年度)	課名
南池袋公園 ブックシェルフ 用図書展示	南池袋公園のブックシェルフに絵本を展示し、公園を利用する乳幼児、児童、保護者・保育園等が気軽に読み聞かせができる環境を整備し、子どもの読書活動を推進する。	保護者・乳幼児	おはなし会実施回数 参加者数	毎年度実施	図書館課